

1997.3.30

1997.

室内楽の午後

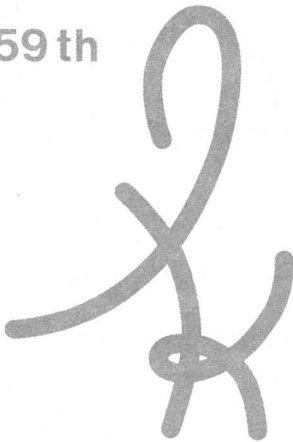
平成9年3月30日(日)

午後2時

市川市文化会館大ホール

市川市文化会館新人演奏会
出身者によるコンチェルト

259 th



市川市教育委員会 市川市文化会館 市川交響楽団協会 共催

本日のプログラム

金管合奏

H. トマジ 「典礼風ファンファーレ」

木管楽奏

R. シュトラウス 13の管楽器のための組曲 作品4

ピアノ協奏曲 独奏：鈴木珠美(第3回市川市文化会館新人演奏会出演)

モーツァルト ピアノ協奏曲 第21番ハ長調 K467

— 休 憩 —

ソプラノ独唱 独唱：崔 岩光(特別ゲスト)

日本の歌曲、中国の歌曲

王 立平 「海はふるさと」

山田耕筰 「この道」

滝廉太郎 「花」

施 光南 「愛する小鳥よ」

オペラ曲集

モーツァルト 歌劇 「魔笛」 第2幕より

僧侶の行進～夜の女王のアリア “復讐の心は燃え”

マスカーニ 歌劇 「カバレリアルスティカーナ」より 間奏曲

ヴェルディ 歌劇 「椿姫」より

ヴィオレッタのアリア “ああ、貴方なのね”～“花から花へ”

指 揮 小林 幸人 管弦楽 市川交響楽団

市川市文化会館新人演奏会出身者によるコンチェルト

市川市文化会館では、毎年地元の音楽家に広く発表の場を提供する為、オーディションにより選抜した若手演奏家による「新人演奏会」を実施しています。市川交響楽団では市川市文化会館の御協力によりこの「新人演奏会」の出身者によるコンチェルトをプログラムに組入れ、私共、アマチュアオーケストラと地元音楽家の共演が実現しました。

プロフィール



〈特別ゲスト〉

ソプラノ・崔 岩光 (さい・いえんぐわん)

中国大連生まれ。1973年、北京空軍工芸団に入団、77年全軍声楽コンクールで優秀賞受賞。81年、中国音楽学院歌劇科に入学、周美玉に師事。84年、中国中央歌劇院ソリスト、国連「地球環境を守る日」イベントとして「愛する小鳥よ」初演。北京音楽家協会「緑葉賞」受賞。86年全国生年歌手テレビ音楽コンクール優勝。89年、東京・渋谷オーチャードホールで日中共同製作オペラ「魔笛」の「夜の女王」役で出演。好評を博す。

90年、Bunakamuraオペラ劇場'90ガラコンサート出演。イタリアの指揮者アルベルト・エレデーの高い評価を得る。1992年12月東京芸大平山郁夫学長から招聘を受ける。1994年4月「東方の歌姫・世界の名歌を歌う」「愛する小鳥よ」続いて1995年5月中国の名歌「茉莉花」のCDをキングレコード(株)より好評発売中。1996年10月ブルガリヤにおいて「崔岩光オペラアリア」を収録、1997年4月発売予定。

1996年6月2日テレビ朝日「題名のない音楽会」に出演、続いて'96・7月1日「崔岩光ソサエティ」(後援会)を結成。日本を基盤に'97年1月イタリアへ、8月カナダへとその活動が国際的に展開されている。



〈第3回市川市文化会館新人演奏会出演〉

ピアノ・鈴木 珠美 (すずき・あけみ)

国立音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。

故クロイツァー豊子、篠井寧子、村松庸子の各氏に師事。第3回市川市文化会館新人演奏会に出演。

国立音楽大学ソロ・室内楽定期演奏会、国立音楽大学同調会千葉県支部コンサートでの新人演奏会、千葉県高等学校教員演奏会、市川オペラ振興会主催コンサート、市川市少年自然の家「プラネタリウムコンサート」、市川公民館「音楽ギャラリー」他、さまざまな演奏会に於ける「合格者紹介コンサート」以来、1994年、1996年と、津田ホールでの「家永ピアノジョイントコンサート」に出演している。

また、声楽、器楽の伴奏や室内楽の分野でも活躍する。

村上正治先生の御指導の下、地域の音楽活動にも関心を持つようになり、市川混声合唱団、行徳混声合唱団をはじめ、市川オペラ振興会、市川市民合唱団などの団体にも積極的に参加している。

現在、千葉県立湖北高等学校教諭。

指揮者・小林 幸人 (こばやし・ゆきひと)

1958年千葉県生まれ。東京音楽大学を経て桐朋学園大学で指揮を学ぶ。指揮を秋谷一衛、ホルンを森山光三、宮田四郎の各氏に師事。また在学中、飯森泰次郎、尾高忠明、小澤征爾各氏のレッスンに参加し研鑽をつむ。内外著名指揮者のアシスタントを努め、1992年には東京オペラインスティテュート終了公演「ヘンゼルとグレーテル」を指揮した。またアマチュアの指導も多数行い、オーケストラ、吹奏楽、合唱、マンドリンなど十数団体の指揮者、トレーナーを務める。

市川市本八幡に在住。

市川交響楽団

本年、創立46周年を迎える、アマチュアとしては全国有数の伝統あるオーケストラ。現在メンバーは120余名、年齢構成は20代から70代の大変広い層にわたり、職業も会社員、教師、主婦など多彩。市川市で開かれる演奏会を中心に、全国各地で開催される文化行事やオーケストラ・フェスティバル等にも出演し、演奏を披露しています。著名な音楽家との協演も多数経験しているほか、地元市川市ゆかりの音楽家との協演を通じて、地域文化の振興にも力を入れています。1999年(平成11年8月)には全国アマチュアオーケストラフェスティバルが地元市川市で開催され、海外からの参加も含め、約250名のアマチュア愛好家があつまります。

本日の曲目について

〈金管合奏〉

「典礼風ファンファーレ」……………H. トマジ(1901—1971)

現代フランス音楽の代表的な作曲家・指揮者であるアンリ・トマジは、16歳でパリ音楽院に入学し、1927年には指揮者として一等賞及びローマ大賞を、1952年にはフランス音楽大賞を受けている。モンテ・カルロのオペラ座、パリ放送局のオーケストラを指揮して活躍する傍らオペラ、バレエ音楽、交響詩、協奏曲、室内楽作品など多くの作品を発表している。特に協奏曲では、フルート、トランペット、サクソフォン、ピオラ、ホルン、クラリネット、トロンボーン、バス、バイオリンといった楽器の為に協奏曲を作曲している。「典礼風ファンファーレ」は金管楽器と打楽器による室内楽作品で4楽章よりなる組曲である。各楽章には聖書を題材としたタイトルのついた標題音楽となっている。演奏時間約16分

第1曲 「ANNONCIATION (聖母マリアへの受胎告知の祝日)」(1'45")

第2曲 「EVANGILE(福音書)」(3')

第3曲 「APOCALYPSE(黙示録)」(3'10")

第4曲 「PROCESSION DU VENDREDI-SAINT(聖金曜日の行列)」(7'30")

(※聖金曜日：復活祭の前の金曜日—キリストが磔になった日)

編成：トランペット3、ホルン4、トロンボーン3、バストロンボーン、テューバ、ティンパニー、打楽器

〈木管合奏〉

13の管弦楽のための組曲 作品4……………R. シュトラウス(1864—1949)

— シュトラウスに於ける人生観の転機 —

日頃私達は有名人や、身近な成功者、あるいは自分自身の今日までを振り返って見た時に、人生における転機というもの、いかにその後の人生を決定づけてしまう程重要なことなのかということを、痛切に感じることがあります。多くの作曲家の中で、大作曲家と呼ばれている人達の一生を調べてみると、まさにいくつもの転機やチャンスを着実にものにするという、小さな成功の積み重ねがあってこそ名を成すことができたというケースがほとんどと言ってもいいのではないのでしょうか。

歌劇「ばらの騎士」、交響詩「英雄の生涯」や「ドン・ファン」、その他多くの管弦楽曲で有名なドイツ後ロマン主義音楽を代表する大作曲家R. シュトラウスは、17才のまだ無名の頃作曲した「13の管弦楽のためのセレナード」が当時の大指揮者ハンス・フォン・ビューローの積極的な宣伝のおかげで好評を得、作曲家として世間に認められるきっかけとなりました。

この「13の管楽器のためのセレナード」に大満足のビューローはシュトラウスにまったく同じ編成の組曲の作曲を依頼し、その結果この「13の管楽器のための組曲」作品4が誕生したのでした。

本来ならビューローの指揮によるはずの初演演奏会も、将来性のある若い指揮者兼作曲家への期待を込めてそのタクトを新米指揮者のシュトラウスに託したのでしたが、曲の出来の良さと彼の的確な指揮ぶりが功を奏し、その公演は成功を収めることができました。その成果がきっかけとなって、その後マイニンゲン、ミュンヘン、ワイマール、ベルリンの各歌劇場と最終的にはウィーン国立歌劇場の芸術監督という輝かしいポストへと繋がってゆくことになったのです。

この「13の管楽器のための組曲」は数少ない大規模な管楽合奏曲ですが、R. シュトラウスにとってまさに彼の人生に於ける転機となった重要な作品といえます。演奏時間15分

第1楽章 プレリユード(アレグロット)

第3楽章 ガヴォット(アレグロ)

第4楽章 イントラダクション(アンダンテ・カンタービレ) フーガ(アレグロ・フォン・プリオ)

※第2楽章ロマンスは時間の都合により、割愛させていただきます。

編成：フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4

〈協奏曲〉

ピアノ協奏曲 第21番 ハ長調 K.467……………W.A. モーツァルト(1756—1791)

モーツァルトは1781年故郷ザルツブルグを離れてウィーンに移り住み、この新天地で自立した音楽家として生活をスタートさせる。ウィーンでの彼の大きな収入源のひとつとなったのが、貴族や富裕な市民を対象に予約者を募って開いた演奏会であった。彼のウィーン時代のピアノ協奏曲の多くはこの予約演奏会のために作られたもので、1曲毎に个性的で完成度の高い作風を示している。本日演奏されるハ長調K.467はブルク劇場で開かれる予約演奏会のために書かれたもので、その前日に完成した。

第1楽章(アレグロ・ハ長調)はマーチ調の第1主題と平明な第2主題を持った協奏的ソナタ形式楽章。技巧的な独奏ピアノと管弦楽との緊密な絡み合い、入念な展開法など、交響曲のようなスケールの広がりを持った楽章である。

第2楽章(アンダンテ・ハ長調)は優美でしかもその裏に憂鬱な味わいを感じさせる美しい歌に満ちた緩徐楽章。その主題は映画にも用いられて有名となった。

第3楽章(アレグロ・ビバーチェ・アッサイ、ハ長調)は、ロンド・ソナタ風の形式によるフィナーレで、快活な華やかさでもって運ばれる。演奏時間30分

〈ソプラノ独唱〉

日本の歌曲、中国の歌曲

「海はふるさと」……………王 立平
中国の有名な作曲家王 立平(ワン・リーピン)によって1985年に発表され、映画「大海在呼喚」のテーマ曲に使用されたため大ヒット曲となった。いまでも中国とくに東北部地方(旧満州)では誰でも知っているほど有名である。

「この道」……………山田耕筰
日本の音楽界の指導者だった山田耕筰(1886-1965)の代表作として愛唱される「この道」は、昭和2年(1927)の作曲で「童謡100曲集」に納められて出版された。北原白秋の謡は、彼が北海道に旅したときの広々とした札幌の印象をうたったもので、大正15年に雑誌「赤い鳥」に掲載された。

「花」……………滝廉太郎
滝廉太郎(1879-1903)の曲集「四季」(二重唱「花」、独唱「納涼」、四重唱「月」、「雪」の4曲)の第1曲で詩は国文学の大家である武島羽衣のものである。女性2部合唱などで演奏することが多く、発表から100年近くを経て今なお歌い継がれている名曲のひとつである。

「愛する小鳥よ」……………施 光南
中国を代表する歌曲や歌劇の作曲家施 光南(シー・グワンナン)によって国連の地球環境保護キャンペーン・ソングとして作曲され、1984年北京で開かれた6月5日のキャンペーン・デーに被献呈者崔岩光によって初演された。「愛する小鳥よ」と繰返されるコロラトゥラのメッセージがとても印象的で、崔岩光の魅力をきわ立たせている。

オペラ曲集

歌劇「魔笛」より「僧侶の行進」(オーケストラ演奏)……………モーツァルト(1756-1791)
第2幕の冒頭で「太陽の世界」の賢者ザラストロに率いられて修行僧たちが舞台上に登場する場面の音楽で、単純な旋律の繰り返しの中で宗教儀式的始まりを思わせる荘厳さがあらわされる。

歌劇「魔笛」より「復讐の心は地獄の炎と燃え」(夜の女王のARIA)……………モーツァルト(1756-1791)
いまは亡き夫が支配していた「太陽の世界」をザラストロに奪われ「夜の世界」に移り住んだ自分の身の上を、夜の女王が娘のパミーナに歌って聞かせる場面で、99小節の超絶技巧のARIAを激しい復讐の執念のをあらわにして一気に歌い上げる音楽は「魔笛」の聴きどころのひとつとなっている。

歌劇「カバレリア・ルスティカーナ」より「間奏曲」(オーケストラ演奏)……………マスカーニ(1863-1945)
イタリア・オペラの間奏曲の中でもっとも有名なこの曲は、オペラの後半、教会でミサが行われる場面で演奏されるもので、弦楽器群による美しい旋律が静かな宗教的雰囲気をかもしだす。

歌劇「椿姫」より「ああ、貴方なのね」、「花から花へ」(ヴィオレッタのARIA)……………ヴェルディ(1813-1901)
第1幕の終曲あたるARIA、パリの社交界で男性遍歴を繰り返すヴィオレッタが純真な青年アルフレットの愛に気づきこころのざわめきを切々と歌う前半の部分と、それでも私は自由に恋をするのだと自嘲的に歌う後半の部分が切れ目なく演奏される。

本日の出演者

第1ヴァイオリン	亀井 玲子	小林 千晶	鈴木 薫	鈴木 淳子	竹内 甲	二宮 伸雄	永田 匡
	根守 弘和	福原 祥子	松延 裕子	村田いずみ	渡辺 昭子		
第2ヴァイオリン	石本 恵理	木本 幸子	堂本 祐司	久田しげ子	平野 弘子	福原 亜希	溝田 範子
	村上 葉子	村田 康代	横田佐貴江	吉岡 一郎			
ヴィオラ	齋藤 十一郎	鈴木志のぶ	竹内ひとみ	奈良林弘子	星 乗昭	水野 桃子	村上 賢一
	若林 繁	渡部 玲子					
チェロ	角田 総一	倉沢 由和	沢田 恵子	瀬川 清	中村 公一	南明由美子	根岸 朋子
	日澤 優	樋口 進	福原 耕二	横田 朝之			
コントラバス	池田 和正	上村 啓介	菊池 克彦	鈴木 重則	李 隆子	八鍬 健	
フルート、ピッコロ	木村 純一	木村真論紀	佐藤 洋行				
オーボエ	二村 直子	藤原 孝一					
クラリネット	一瀬 直美	多田 準也	時田 雄	半藤 嗣人			
ファゴット	金坂 哲	菅原 斉	古屋 文弘				
ホルン	越塚 康典	近藤 利昭	鳴村 恒夫	藤井 茂司	山内 正晴	吉浦 昭彦	
トランペット	安藤 宣明	大津留史郎	新井本昌宏				
トロンボーン	久保 昭	佐野 義人	関根 一臣	藪崎 裕至			
チューバ	谷口 浩						
打楽器	岩橋 正治	瀬川 順子	谷口 仁美	都筑 裕			